
[三百文字小説]ナポレオン

月影舞月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「三百文字小説」ナポレオン

【Nコード】

N4058V

【作者名】

月影舞月

【あらすじ】

私はナポレオン。軍人だ。

私はナポレオン。
無敵なのである。

今の今まで敗けたことがない。
誰も私には勝てないのだ！

私はナポレオン。
皇帝なのである。

最近市民の不満が高まってきた。
しかし誰も私を止められないのだ！

私はナポレオン。
重犯罪者である。

ついに市民軍に捕まってしまった。
議会も、軍も、私の敵だ。

かのベートーヴェンは私が皇帝になったとき、私に捧げるはずだった曲をビリビリに破いてしまったそうだ。
もしかしたらそれは、愚かな私の未来を予知したからかも知れない。

断頭台が近い。

死が、一步一步迫ってきている。

死にたくない。けれど、私に残されている道は死のみだろう。

「ナポレオン獅子は、無敵だ！」

そう、私は叫んだ。
そこで生命が終了。ジ・エンド

(後書き)

嘘かもしれないあとがき。

実は「大嘘つき」くんはホモだった。

僕はその事を知って、幻滅した。僕はその場から逃げ出した。

二度と彼と口を聞きたくなかった。

けれど、彼は毎日僕と接触をはかろうとしてきた。僕は彼から愛の言葉を一面に書かれた手紙をもらったこともあった。でも、もううんざりだ。僕は怒って彼に「まわりつくな、死んでしまえ！」と言いつつ放った。

そしたら、彼はこういった。「オマエと (図書委員の娘)の仲がよくて、嫉妬してたことに気づかないのか？」

「知るか！ ホモの思考回路なんざ理解できるか！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4058v/>

[三百文字小説]ナポレオン

2011年10月6日20時07分発行